
古城の夜

畔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

古城の夜

【Nコード】

N3385W

【作者名】

畔

【あらすじ】

夢を語る弟は言いました。「お父さんとお母さんはどこにいるの？」「夢を捨てた男の子は言いました。「お空にいるんだ。流れ星に乗って」

（前書き）

駄作ですが、何とぞよろしくお願いします。

昔々あるところに、それは古いお城がありました。

城主は齡十の男の子でした。

男の子にはお父さんがいません。彼のお父さんはお金持ちで、とても優しくしてくれましたが、彼が小さな時にお城を出て行ってしまいました。

男の子にはお母さんがいません。彼のお母さんは美しく、誰にでも自慢できるお母さんでした。お母さんはとても優しくしてくれましたが、彼が小さな時に亡くなってしまったのです。

男の子には弟妹がいました。沢山もの夢を語る無邪気な弟と、まだ言葉もおぼつかない小さな妹です。彼は二人をととても大切に思っていました。

ある時、弟は言いました。

「お兄ちゃん。どうしてぼくらにはお父さんとお母さんがいないの？」

弟は初めて夢以外のことを喋りました。もう夢を見なくなってしまった男の子は、両親がいない本当の理由を知っています。けれど、彼は弟のために嘘をつきました。

「お父さんとお母さんは、お空に行ったんだよ」

「お空にはどうやって行くの？」

「流れ星に乗るんだ」

「どうしてお空に行ってしまったの？」

男の子は困り果ててしまいました。本当のことを話すには、弟はまだ幼すぎたのです。

「良いことをした大人たちはお空に行くんだ」

嘘だ。

夢を捨てた男の子は思いました。しかし、弟は満足げに頷いて妹のところへ歩いて行きます。男の子は心の底からほっとしました。

男の子は窓を開け、夜空を見上げます。

両親は空^{かれら}なんかに行かない。彼らが空に行くことは絶対にない。

なぜなら。

「何か嫌なことでもあったの？」

『お母さん』は彼に話しかけました。どことなく不安そうな表情です。

「ううん、何でもないよ」

男の子は目をこすりながら言いました。もう寝る時間はとっくに過ぎていたのです。

「もう夜も遅い。さあ、もう寝るんだ。子供はもう寝る時間だぞ」

『お父さん』は夜遅く起きている男の子を叱りました。男の子は不服そうですが、頷きます。

両親は空^{かれら}なんかに行かない。彼らが空に行くことは絶対にない。

なぜなら、二人は幽霊となつてこの場に留まっていたからです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3385w/>

古城の夜

2011年10月9日15時54分発行